

企画展示

館内では、当財団の研究活動の紹介や、テーマごとに蔵書を紹介する企画展示を行っています。ご来館いただいた際には是非ご覧ください。

ライブラリープラザ 1F

夏の白馬と北アルプス
(期間：2024年7月～9月)

日本のみならず、世界各国から人々が訪れる日本屈指のマウンテンリゾート長野県白馬村。

1893(明治26)年、白馬岳に一等三角点が設置され、多くの山岳関係者や学者が訪れるようになります。その後、日本初の山小屋がオー



ブンし、日本における山岳登山ブームやスキーブームに繋がることになりました。日本の民宿発祥の地でもあります。1998年には長野冬季オリンピックの開催地となり、外国人の来村も増え、現在も国際色豊かな地域となっています。

北アルプスの雄大で美しい景観、高山植物帯、日本百名山でもある標高2,932mの白馬岳、夏山トレッキングなど冬のスキーリゾートとは異なる魅力に溢れる「夏の白馬と北アルプス」をテーマに企画展示を行います。

協力：一般社団法人 白馬村観光局
銀座NAGANO観光情報センター

こちらもCheck /

最寄りの港区立赤坂図書館ではこの度の「夏の白馬と北アルプス」企画と連携して、特設コーナーを設けて信州の図書を企画展示中です。特色ある青山・赤坂エリアの図書館巡りをお楽しみください。
<https://www.lib-minato.jp/library/akasaka.html>



Information

当財団新刊のご案内

観光文化261号

我が国の観光振興財源の現在とそのガバナンスの展望
～「どう導入するか」から「どう活用するか」へのパラダイムシフト～

現在、観光振興財源として「宿泊税」が着目され、各地で検討と導入が進んでおり、今後はより一般的な(つまり、存在することが前提となる)財源確保手段となることが想定される。本特集では宿泊税の「導入」に関するプロセスを改めて整理しつつ、導入済み地域の現状や実効性を担保するための法的な技術論にも触れながら、観光振興財源の「活用」に関するプロセスと、観光地としてのガバナンスのあり方について考察する。



エントランス ギャラリー (予告)

「誰もが旅行を楽しめるツーリズムのあり方」としてがん患者に焦点をあてた研究の取り組みを紹介します。

港区の専門図書館紹介

カナダ大使館 E・H・ノーマン図書館

カナダ大使館E・H・ノーマン図書館は、1991年現在の大使館が完成し、カナダを紹介するための文化施設として、アートギャラリー、シアターとともに地下2階に設置されました。2001年、生涯を通じてカナダと日本の人々の相互理解と友好促進に力を尽くしたカナダ人歴史学者・外交官、E・ハー

バート・ノーマンを記念して「E・H・ノーマン図書館」と命名されました。館内での資料の閲覧、図書や視聴覚資料の貸出などのサービスの他、カナダの学校のパンフレットを閲覧できる留学コーナーや、赤毛のアンのコーナーもあります。図書館はどなたでも無料でご利用いただけます。



- 所在地
東京都港区赤坂7-3-38
- 開館時間
午後1時半～5時半まで
(最終入館 午後5時)
- 休館日
土、日曜日、カナダ大使館休館日

入館には、政府発行の写真身分証明書(例：パスポート、運転免許証、在留カード、マイナンバーカード)、または身分証明書2点：保険証、および有効な写真身分証明書(例：企業、法人発行のもの)の提示が必須です。

たびとしょ

— 旅の図書館 News Letter —

Vol.28

2024年7月号



白馬岩岳マウンテンリゾート



「旅の図書館」TOPICS

当館の直近の様子をトピックスとしてお伝えします。

マウンテンリゾート研究会シンポジウム2024を開催しました

マウンテンリゾートに関わる諸課題について、各専門家・実践者を交えた情報共有や議論を行い、課題解決を目指す「マウンテンリゾート研究会シンポジウム2024」を6月24日～25日に当財団にて開催しました。

1日目には、当財団理事山田雄一による基調講演、続いて副主任研究員江崎貴昭および野沢温泉スキークラブ理事長 森見氏からの講演の後、長野県白馬村村長 丸山俊郎氏、長野県山ノ内町町長 平澤岳氏をお招きし、マウンテンリゾート地域における地域文化・山岳文化の創造と実践についてパネルディスカッションを行いました。2日目には、「女性と子供に優しいスキー場」「スキー行動データ」「インバウンド需要とラーメン」「リゾートでの野外音楽フェス」「気候変動対応とアライアンス」「レストラン/タクシー/スタッフ不足対応」「旅の力による人材不足対策」「条例とリゾート」の8つの観点から各講師を招き、講演しました。総勢64名の参加者を迎え、盛況のうちに閉会いたしました。

マウンテンリゾート研究会は、マウンテンリゾートに関連する事業者や地域、個人等を会員とする、当財団が事務局を務める研究会です。今後もマウンテンリゾートの諸課題の解決に向け、議論や実践を行っていきます。



東京都立大学

観光まちづくり研究室の皆さんが 来館されました

東京都立大学 都市環境学部 観光科学科 観光まちづくり研究室の川原晋先生と皆さんが学外ゼミとして5月中旬に来館されました。「観光」や「観光まちづくり」の幅広い分野の中で研究テーマのヒントを得ること、かつ観光の現場での課題やトピックの情報収集を目的として、当財団刊行物や資料を閲覧した後、考察発表と当財団菅野研究員を交えた意見交換が行われました。「貴重な資料を実際に手に取れるというのは価値ある体験だと思った」等、示唆に富むお声をお寄せいただきました。旅の図書館では今後も観光を学ぶ学生の皆様の研究や学びの活動をお手伝いしてまいります。



文教大学

海津ゆりえゼミナールの皆さんが 来館されました

5月下旬に文教大学国際学部国際観光学科、海津ゆりえゼミナールの皆さん(20名)が来館されました。今回は大学4年生の皆さんが卒論の研究活動をするにあたり、当館にて観光に関する情報収集を目的として各種蔵書や調査・統計データのご利用の他、ディスカッションなども行いながら図書館を活用いただきました。また、利用にあたっての貴重なご意見も多数いただきました。旅の図書館では、より一層利便性を高め、効果的にご利用いただくため大学向けの「図書館利用プラン」なども検討中です。



公益財団法人 日本交通公社 観光研究部からのオススメ図書

「旅の図書館」は観光文化をテーマとする専門図書館として多くのお客様にご来館いただいております。特に学生の皆さんには積極的にご利用いただいております。

図書館は観光研究部とも連携してより利便性の高い機能・サービスの提供に努めていく予定ですが、その一環として、このたび観光研究部の研究員が、学生の皆さんを対象にオススメの一冊を選定いたしました。

選定された
オススメ図書

基本
編

これから観光を学ぼうとする
学生の皆さんへの
入門編として20冊

応
用
編

各研究員の研究領域を含めて
少し専門性の高い
応用編として17冊



基本編から5冊を代表して紹介します。

旅の図書館では、基本編、応用編の全37冊を館内にて展示するとともに、各研究員からオススメのポイントも揭示してご案内しています。是非、ご来館ください。



1 エコミュージアムへの旅

大原一興 著 (株)鹿島出版会 1999年発行

エコミュージアムは、「地域環境全体を博物館と見立てた」概念であり、「従来型のように博物館の建物内に場を限定せず、ある地域の一定の[領域]において、そこに点在する[遺産]や無形の[記憶]を対象として、従来型博物館では[専門家]と[公衆]によって担われている役目を、エコミュージアムでは地域[住民]が担う」という特徴を有する(かっこ内は本書からの引用)。

大学で建築学(テーマ:博物館建築の計画手法)を学んでいた推薦者は、当時この考え方に触れたことで、計画すべき対象の関心が「建築」から「地域」に移った(ちなみに、本書の著者は推薦者の大学時代の恩師)。博物館学という観光以外の分野からのアプローチであるが、地域資源と住民の関係性などは観光(観光まちづくり)を学ぶ学生にとっても、参考にし得る部分は多いのではないだろうか。

2 まちづくりの発想(1987年)

まちづくりの実践(1999年) まちづくりと景観(2005年)
田村明 著 岩波書店

なぜ「まちづくり」は平仮名で書くのでしょうか?

「まちづくり」という言葉の頭にはあらゆる名詞が付けられ、今日では「観光」に限らず多くの「○○まちづくり」で溢れています。

著者は横浜市職員として都市づくりを推進してきた都市プランナーで、「まちづくり」の理念を提唱された方です。

本書では、市民によるまちづくりについて、各地の事例を交えながら紹介されています。約20～40年前に発行された古い本ですが、まちづくりの理念は決して色褪せるものではないと思います。

観光分野に限らず、まちづくりに携わりたいと思っている皆さんに是非読んで(そして実践して)頂きたい「まちづくり3部作」です。

3 USJを劇的に変えた、たった1つの考え方 ～成功を引き寄せるマーケティング入門～

森岡毅 著 KADOKAWA 2016年発行

低迷していたテーマパーク「ユニバーサル・スタジオ・ジャパン」の業績をV字回復させたのは、徹底した「マーケティング思考」だった。敏腕マーケティングとして知られる森岡毅さんの一冊。マーケティング初心者にも読みやすく、観光を学ぶ学生にオススメです。

4 現代観光学 ツーリズムから「いま」がみえる

遠藤英樹 ほか編著 新曜社 2019年発行

この図書は主に社会学の視点から観光についての主要なトピックを紹介している。図書の前半部分では、数ページほどの短い章でポストモダンや真正性、パフォーマンス、モビリティ、植民地主義の問題など、ともしればとつきにくい人文社会学の議論を観光の視点から簡潔に解説する。また後半では、こうした理論を踏まえ、国内の観光地の事例が紹介される。

これから観光研究に取り組む学生には社会学や人類学の知見を取り入れる手引きとして、すでに社会学などの関連分野を学んでいる学生にとっては観光という視点から新たな刺激をもたらす図書として、大変有益な一冊である。

5 ゆふいん大航海時代の幕開け

～旅をした仲間たち～

由布院の百年・編集サロン 編 日本旅館協会由布院連絡会 2021年発行

由布院は、観光まちづくりの成功例として語られることが多い。本書は、観光地としての由布院の基礎を作り上げた溝口薫平氏・中谷健太郎氏らを中心とした関係者の座談会を記録したものである。彼らが由布院のまちづくりに取り組んだ背景や思いが伝わる一冊となっている。

*旅の図書館ホームページでも紹介しています。